

長崎県知事

中 村 法 道 様

石木ダム建設絶対反対同盟

ダムからふるさとを守る会

石木川の清流を守り川棚川の

治水を考える市民の会

石 木 川 ま も り 隊

## 石木ダム付け替え道路建設工事中止を求める申し入れ書

県は3月24日川棚町に計画している石木ダム建設のための付け替え道路建設工事を開始しました。この事業については去る2月1日に工事中止を求め、前知事に申し入れていたところです。昨年県知事は石木ダム建設反対派地権者との意見交換の場をつくるため事業認定申請を行っています。私たちはダムの必要性を双方の推薦する専門家による公開討論会を求めていますますが実現していません。さらに私たちは事業認定申請書の公告縦覧をした後、昨年12月国土交通省九州地区整備局へ申請書に対する意見書と公聴会の開催請求書を提出しているところですが、その後の措置については何も通知がありません。

また、昨年の秋 政権が交代し「コンクリートから人へ」の政府の方針で全国の148箇所のダム建設見直しが進められています。石木ダム建設も含めた基本計画を、今年夏に結論を出すと国土交通省は言っています。

石木ダム建設事業の動向が分からない中で、ダム付け替え道路建設工事を急いで行う理由が分かりません。私たちは国土交通省が行うダム建設事業の見直しが終了するまでダムに関わる工事を一切中止することを強く求めます。

岩屋・木場・川原地区住民はこの美しい大自然をふるさととし、ホテル飛び交う石木川の清流のなかで暮らしていた平穏な里を、県は身勝手なダム建設計画を立て、佐世保市や川棚町と共に人心を長きに亘って破壊し続けています。

知事は就任後多くのあいさつのなかで「**県民の一人一人の痛み**に敏感な県政」をよく使われています。素晴らしいそして有難いお言葉だと思っています。

しかし、住民は30余年間、県、市、町行政機関のダム建設強制の圧力に苦難を強いられ、心を痛めています。知事の言葉の「痛み」はどんな痛みでしょうか。

一日も早く平穏な暮らしのふるさとに戻せるよう念願し、石木ダム付け替え道路建設工事を中止して、ダムに拠らない治水・利水を考える県政ができるよう申し入れます。